

【震災募金口座】 振替 00140-9-180881
宗教学人日本バプテスト連盟総務部

<原発課題班コラム>

野中宏樹（鳥栖教会）

福島に行ったおりに原発事故によって帰宅困難区域とされた地域の方々の不動産鑑定に関わってこられた方にお会いしました。「家と言っても、ひとくくりには出来ません。一軒一軒思い入れがあり、何年もかけて建てられた家もある。また登記簿上は『畑』となっている『庭』も、丹精込めて手を入れてこられた方も多し。けれども『補償』となると一律に計算されてしまう。何よりも東京電力は事故を起こした当事者であるのに、直接現地を見にも来ないで『補償』と機械的に言う。第一、『補償』と彼等が口にすることがおかしい。正確に『賠償』と言わなければ、責任の所在が曖昧になるのです。腹の立つ話です。馬鹿にされている…」と彼は言われました。もともと「国策として進めてきたのだから責任は国がとるべきだ」と電力会社は言い、国は「事業者が責任を取るべきだ」と言い、原発を受け入れてきた地方自治体は「安全だと言ってきた国や事業者が責任を取るべきだ」と言ってきました。この構造の中では誰も責任を取らない事になってしまいます。現に福島原発事故の責任を誰も問われず、裁かれてもいません。「賠償金」は私たちの電気料金と税金で賄われています。原発事故による放射能の重大な影響は軽く見積もられ、そして「賠償」も早々と打ち切られるでしょう。原子力規制委員会が未だ持って「原子力緊急事態宣言」を取り下げていないのにも関わらず、新たな「安全神話」と「安心神話」が振りまかれ、まるで事故などなかったかのようです。残された住民や原発作業員の人々が何十年、もしくはそれ以上にもわたる期間、苦悩をただただ背負わされる。これは原発事故を巡るこの国の酷い現状です。

5月に郡山市内で空間放射線量を測定しましたが、至る所に「放射線管理区域」が存在していました。おそらくこれは福島県内だけではなく、東日本全域の課題でしょう。分けても子どもたちの命を守るという観点から今一度私たちは頭の中に基本となる数字を刻む必要があります。日本国内の法令に従えば、「放射線管理区域」と指定されるのは0.6μシーベルト/hを超えるエリアで、ここでは人は飲食はもちろん、生活してはなりません。未成年者や妊婦は勝手に立ち入りできません。そこで作業する人は放射線の防護対策が必要となります。また、ICRP（国際放射線防護委員会）の勧告に従えば公衆のヒバク許容量は年間1ミリシーベルトです（これだけは仕方がないという許容量の事で、これで安全であるという数字ではありません）。いっそう気を配らなければならないことは、呼吸や飲食に伴う「内部ヒバク」です。そのためには今まで以上に気を配り、測定をしながら「放射能の見える化」を進めなければならないと思います。気を緩めず、それでも共におられる十字架の主イエスさまを見ながら歩みましょう。

<前号(第31号)記事の訂正>

写真の説明中「国道6号線」とすべきところを「国道4号線」と誤記いたしました。慎んで訂正いたします。

<現地支援委員会より>

現地支援委員長 金丸 真（仙台長命ヶ丘教会）

現地支援委員会は、2011年6月30日に第1回委員会を開いて以来、現在に至るまでほぼ毎月開催され、広い被災地域の現状に細かに寄り添わせていただくために分けられた青森・岩手チーム、宮城チーム、福島チームのそれぞれの報告や現状、課題を聴き合い、共に御言葉に聴き、話し合いを積んできました。

広い東北の各地から毎月集まって話し合いをするのは大変な時もありますが、しかし、この会議によって御言葉と客観的な視野が与えられ、現在まで励まされてきました。

先月5月21日に開かれた現地支援委員会は17人が出席して行われましたが、今回はさらに遠く福岡から、原発課題班の野中宏樹牧師、鈴木牧人牧師が会議に参加してくださいました。

放射能被害は深刻で、現地の子どものうちでも甲状腺異常が発見されるケースが増えてきています。健康被害は子どもたちだけではなく年齢に関係なく襲ってきます。精神的な負担も重大ですし、地域分断の課題もあります。この目に見えにくい痛み、東北以外の場所からも目を注ぎ、祈ってくださっていることを、原発課題班の方々の会議参加によって改めて実感することができました。感謝です。引き続きお祈りとご支援をお願いいたします。皆様に感謝して。



<3.11を忘れないチャリティー・コンサート>

西川口キリスト教会対外担当執事 高松隆幸

東日本大震災から4年2カ月が経過しました。被災に遭われた多くの方々はその生活基盤は元には戻らず、心の痛み・喪失感はまだ癒されないままとなっています。このような状況にもかかわらず人々から震災の記憶が遠のいていくことに心を痛み、西川口キリスト教会では5月9日(土)に「3.11を忘れないチャリティー・コンサート」を開催させていただきました。プログラムと出演者には連盟宣教部教会音楽室からの全面的なご協力を得て、教会周辺にお住いの方々、教会員の友人や家族、他派も含めた近隣教会の方々約130名の聴衆が、素晴らしい演奏を堪能させていただきました。



プログラムは四部で構成され、Ⅰ・Ⅳ部が新生讃美歌、Ⅱ・Ⅲ部がオペラやリードのクラシック音楽（声楽）でした。聴衆の被災者に対する思いに合わせて、演奏者の祈りが賛美として会場に満ち溢れました。特に最後に全員で歌った「ふるさと」では、聴衆全員が仮設住宅で暮らす人たちと共に歌っているように感じ、感動的な体験をさせていただきました。被災者を思い、一人ひとりが被災地を支える働きに与る者として用いられたことを感謝する場でもありました。寄せられた心からの募金が被災地支援の働きに用いられますことを感謝いたします。最後に、お忙しい中ご奉仕くださった出演者の方々に厚くお礼申し上げます。

舞台左より 江原美歌子氏（ソプラノ・教会音楽室長）、石橋香緒里氏（ソプラノ・相模中央教会）、豊原奏氏（テノール・栗ヶ沢教会）、飯塚道夫氏（バリトン・青葉教会）、山寄美奈氏（左奥 ピアノ・西川口教会）

<「3.11を忘れない！」チャリティー・コンサート開催のおすすめ>

3.11大震災の記憶が薄れていくことを心配しています。未だ次の展望が見えない被災地の方々、現地にある教会を覚えてのチャリティー・コンサートの企画を歓迎いたします。企画にあたって東日本委員会には協力させていただき用意があります。お問い合わせください。（jbcsaigai@bapren.jpまで）

震災募金にご協力ください 2015年度募金目標額：1400万円（国内・国外）

2015年5月までの実績 125万円

<2015年4月、5月募金者（受付順、敬称略） 32名(口)の方々から献げられました。心から感謝申し上げます。>

金沢、諫早、伊丹、久留米、丸亀城東町、高知伊勢崎、下関、中野、調布、人吉、広島西、久保祐子、FIRST SOUTHERN BAPTIST JAPANESE CHURCH OF UTAH、南九州地方連合小羊会、盛岡、天野五郎・文子、鹿児島、古賀、青少年専門委員会隣旅（Tシャツ売上）、日立、奈良、調布、関西黎明、西川口（チャリティー・コンサート）、南小倉、中野、神戸伊川（ホームレス支援ネット兵庫）、大阪、三鷹、西南学院中学校・高等学校、八幡、函館美原